

重症心身障害児(者)における摂食嚥下リハビリテーション活動の実践からチーム医療の教育方法を考える

大塚 義顕[†]第77回国立病院総合医学会
2023年10月20日 於 広島

IRYO Vol.78 No.6 (355-359) 2024

要旨

重症心身障害児(者) (重症児者) における摂食嚥下リハビリテーション (摂食嚥下リハ) 活動は、重症児者の食を中心とした生活の質を改善するために不可欠な取り組みであり、チーム医療においても多職種力を結集することが最も重要な分野である。そこで、当院の摂食嚥下リハ活動の実践の経験からチーム医療の教育の在り方について述べる。

国立病院機構 (当院) での重症児者の摂食嚥下リハ活動は、1981年に始まり翌年には多職種による摂食嚥下リハビリテーション委員会 (摂食委員会) を設立し、定期カンファレンスを開催している。そこでは専門職種間のコミュニケーションと実践の場での協力関係を促し、相互理解や信頼関係を築くことに務めている。1983年からは、重症児者における摂食機能向上のための研修会 (摂食研修会) を開催している。参加者への調査では、知識および技術について高い評価が認められているものの各施設では「摂食チームができない」「実践するための環境が整っていない」などの課題が多くあげられていた。そこで、2009年NHOネットワーク共同研究において多職種による摂食チームを構成し、摂食機能療法の実践に取り組んだ。それによると、一定期間にほぼ半数以上の症例で何らかの効果を認めている。また、チーム医療における教育効果を評価するために広く用いられる多職種連携状況評価尺度 (日本語版RIPLS改訂) を摂食研修会のグループワークにおいて試み、その効果の判定を調べたところ、自らの職種の専門的役割を他職種に説明し、理解してもらうことや意見を交わし相互に理解に努めることなどがあまりできていないことがわかった。最後に、チーム医療の教育法を考える上では、研修後の調査やチーム医療教育に必要な手法などを取り入れることが大切であると考えられる。

キーワード 重症心身障害児(者)、摂食嚥下リハビリテーション、多職種連携、チーム医療

はじめに

国立病院機構千葉東病院 (当院) では重症児者病

棟における摂食嚥下リハ活動として摂食委員会¹⁾があり、重症児者のための摂食嚥下リハの知識や技術を習得するための摂食研修会を毎年開催している。

国立病院機構千葉東病院 歯科 †医師

著者連絡先: 大塚義顕 国立病院機構千葉東病院 歯科 〒260-8712 千葉県千葉市中央区仁戸名町673

e-mail: ootsuka.yoshiaki.zm@mail.hosp.go.jp

(2024年3月14日受付 2024年8月2日受理)

Developing an Educational Approach to Interdisciplinary Medical Care Based on Practical Experiences in Dysphagia Rehabilitation for Severe Motor and Intellectual Disabilities

Yoshiaki Ootsuka NHO Chibahigashi National Hospital

(Received Mar. 14, 2024, Accepted Aug. 2, 2024)

Key Words: sever motor and intellectual disabilities, dysphagia rehabilitation, multidisciplinary cooperation, team medical care